

内外交差点

タクシーにできることは多岐に渡る 「タクシー+観光」の可能性④

森田 玲子氏（姫路タクシー社長） 第4/12回

暑中お見舞い申し上げます。日々災害級の暑さとの情報を耳にする中、日傘どころでないタクシーの有用性を実感し、社会貢献度の大きさを幸に思う。皆様におかれましてはご健勝で「暑い夏はタクシーがよく動く」ことへの余念なくお過ごしだろう。

姫路城に登城された方々も、帰りはもう暑さに辟易とした表情で、城の前に待機しているタクシーに次々と乗り込み駅へと向かう。姫路城内は広くてかなり歩かなくてはならない、建築当初のままであるから天守閣にはエレベーターもない。階段の段差もやけに大きいので（当時の侍の平均身長は150センチ台、現代人でも困難な段差の階段を作った理由は何だろう）天守閣の上まで見学をされた方は夏のこの季節だともうぐったりだ。姫路駅までのタクシー乗車時間はほんの5分足らずであるが、車内で束の間の涼を得てから帰路につかれる。単なる移動ではない、こういう空間を提供できるのもタクシーの大きな能力だ。ここで一つご紹介したい、弊社には自信を持ってお薦めできる商品がある。通年よく売れているが、暑いこの時期は特別よく注文を受ける。姫路城の周りを周遊する「姫路城パノラマコース1時間」である。

時は15年前に遡る。ちょうど私が仕事を始める直前である。

当時中学受験を控えた息子を姫路駅前の塾まで送迎していた。ある日、早く着きすぎた私は姫路駅周辺をあてもなく歩いていたのだが、コインロッカーの前でいかにもつまらなさそうに座り込んでいる外国人カップルが視界に入ってきた。私は幾ばくかの勇気を出して彼らに「どうかされましたか？」と話しかけた。彼らは16時頃の新幹線で広島へ向かうが、それまで時間が余ってしまった。もうお城は観たしご飯も食べた、でももうお茶も飲みたくないし、仕方なくここで時間を潰しているというのだ。その時の時間は14時過ぎで、新幹線の時間まで有に1時間以上あった。なんともったいない時間だろうか。もし私がフリーなら私の車でドライブにでも行けたのに…結局しばらくお喋りをして別れた。

これは私にとって屈辱的とも取れる経験となった。わざわざ遠くフランスから日本へやってきて、何が楽しくてコインロッカーの前で時間を潰さなくてはならないのか。そうさせているのはホストである我々なのだ。これは私にとって今でもお客様をもてなす上で指針となる原体験となっている。

その後、姫路タクシーに入社して仕事を始めた私は、姫路市の観光課や姫路観光コンベンションビューローとも「姫路の観光」という議題を囲んでご一緒するようになった。折しも2009年から姫路城の平成の大修理が始まり、観光に携わるものがひとたび立ち止まって観光について考え直す時期になっていたと思う。その時に私は市や市民、事業者がタクシーに何を求めているのかを知るようになった（その多くは耳の痛いものであった）。そして姫路市が最も注力していたのは「宿泊を増やす」ことであり、姫路での滞在時間を延ばすことで経済効果を最大限にすることであった。議論は「新しい外資系ホテルが必要」「美味しいお店を如何に発信するか」というものが常に中心になっていたが、私はタクシー会社の経営者で宿泊も飲食も門外漢である。ではタクシーに今何ができるか。

2015年、大修理を終えた姫路城は盛大な再オープンを果たす。NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の効果も相まって連日多くの人出である。ある日、姫路市立美術館（こちらの常設展示国富コレクションは一見の価値あり）を訪れた私は違和感を覚えた。姫路城は入場制限するほどの人が訪れているのにも関わらず、私が大好きなアングルである城の東には殆ど人がいない、城の裏に行ってみても勇壮な背面を愉しむのは、散歩をする近所の人と彼らの犬ばかりである。

この時の違和感と、かつて経験したコインロッカーの原体験から「姫路城パノラマコース」は誕生した。私にはタクシーがある。せっかく来ていただいた人にありったけの姫路の良いところをタクシーでご案内したい。私にラグジュアリーホテルは建てられないが、1時間でも半日でも楽しませることはできるはず。今ではここから発展した2時間コースや、ドライバーお任せコースも大変好評を得ている。

観光に限らずタクシーに出来ることは多岐に渡り、それを示唆される機会は溢れている。

